

認識行動システム論

第6回
梶本裕之

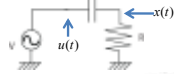
日程(多少変更)

- 11/26 行列と最小二乗法
- 12/03 信号処理と行列
- 12/10 中間テスト(授業時間中)
- 12/17 信号処理(アナログ・デジタル)
- 01/07 古典制御の基礎
- 01/14 ロボティクス
- 01/21 画像処理
- 01/28 期末テスト(授業時間中)

レポート課題: ハイパスフィルタの伝達関数

$$H(\omega) = \frac{sCR}{sCR+1} = \frac{s}{s + \frac{1}{CR}}$$

s=jωを代入して、周波数応答をしてみる

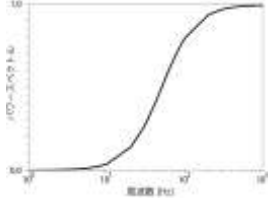


```

Scilabソース
R=32; //抵抗 32Ω
C=10^(-4); //コンデンサ100μF
f=[0:1000]; //周波数
w=2 * %pi * f; //角周波数
//応答
H=%i*w ./ (%i*w + 1/(R*C));

//パワースペクトル
power_spec = H .* conj(H);

//片対数グラフで表示
plot2d1("ln",f,power_spec);
    
```



32Ωの抵抗と100μFのコンデンサで、10Hz程度以下の周波数を阻止するハイパスフィルタが出来た。(コンデンサの容量を変更しました。)

行列復習

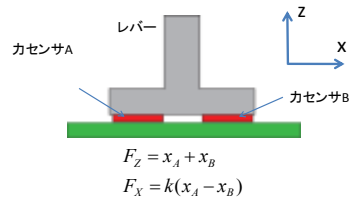
(復習) 行列: データ列を変換するもの

$$\mathbf{y} = \mathbf{A}\mathbf{x} \quad \mathbf{x} = \mathbf{A}^{-1}\mathbf{y}$$

$$\begin{bmatrix} y_1 \\ y_2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} a_{11} & a_{12} \\ a_{21} & a_{22} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix}$$

- (例1) y: 観測データ, A: システムの性質, x: 媒介変数
- (例2) y: フーリエ空間での周波数成分, A: フーリエ変換行列, x: 実空間でのデータ系列

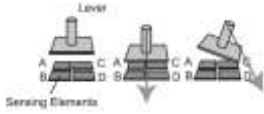
(復習) (例) 2軸力センサ



$$2 \times 1 \text{ベクトル} \begin{bmatrix} F_z \\ F_x \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 & 1 \\ k & -k \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x_A \\ x_B \end{bmatrix} 2 \times 1 \text{ベクトル}$$

2x2行列

(復習) (例)多軸力センサ



$$F_z = k_1(x_A + x_B + x_C + x_D)$$

$$F_x = k_2((x_A + x_B) - (x_C + x_D))$$

$$F_y = k_3((x_A + x_C) - (x_B + x_D))$$

$$\begin{bmatrix} F_z \\ F_x \\ F_y \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} k_1 & k_1 & k_1 & k_1 \\ k_2 & k_2 & -k_2 & -k_2 \\ k_3 & -k_3 & k_3 & -k_3 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x_A \\ x_B \\ x_C \\ x_D \end{bmatrix}$$

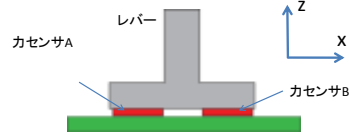
3x4行列

一般には正方行列ではない！！

(例)6軸力センサには8つ以上のセンサエレメント内蔵



(復習)カセンサのキャリブレーション(較正)



$$F_z = k_1x_A + k_2x_B$$

$$F_x = k_3x_A + k_4x_B$$

$$\begin{bmatrix} F_z \\ F_x \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} k_1 & k_2 \\ k_3 & k_4 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x_A \\ x_B \end{bmatrix}$$

k1~k4のパラメータは元々未知.

これを求めなければ使えない！！

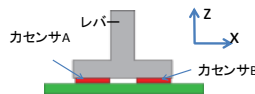
(復習)逆行列

$$\begin{bmatrix} F_z \\ F_x \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} k_1 & k_2 \\ k_3 & k_4 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x_A \\ x_B \end{bmatrix}$$

これを $\mathbf{f} = \mathbf{Ax}$ と書く.

ここで,
「ある力を加えたときの各センサ出力は？」
という逆の関係を考える.

$$\mathbf{x} = \mathbf{A}^{-1}\mathbf{f} = \mathbf{Gf} \quad \begin{bmatrix} x_A \\ x_B \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} g_1 & g_2 \\ g_3 & g_4 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} F_z \\ F_x \end{bmatrix}$$



(復習)逆行列の測定

$$\mathbf{x} = \mathbf{Gf} \quad \begin{bmatrix} x_A \\ x_B \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} g_1 & g_2 \\ g_3 & g_4 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} F_z \\ F_x \end{bmatrix}$$

(1) $F_z=1, F_x=0$ の力を加え, 各センサの出力を記録

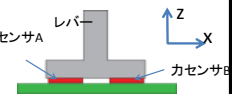
$$\begin{bmatrix} x_A \\ x_B \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} g_1 & g_2 \\ g_3 & g_4 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} g_1 \\ g_3 \end{bmatrix}$$

各センサの出力に, 逆行列の成分 g_1, g_3 が現れる!

(2) $F_z=0, F_x=1$ の力を加え, 各センサの出力を記録

$$\begin{bmatrix} x_A \\ x_B \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} g_1 & g_2 \\ g_3 & g_4 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} g_2 \\ g_4 \end{bmatrix}$$

各センサの出力に, 逆行列の成分 g_2, g_4 が現れる!



(復習)逆行列の測定

$$\mathbf{x} = \mathbf{Gf} = \mathbf{A}^{-1}\mathbf{f} \quad \begin{bmatrix} x_A \\ x_B \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} g_1 & g_2 \\ g_3 & g_4 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} F_z \\ F_x \end{bmatrix}$$

$\mathbf{G}=\mathbf{A}^{-1}$ の成分, $g_1 \sim g_4$ が得られたので,
その逆行列を計算すれば \mathbf{A} が得られる.

$$\mathbf{f} = \mathbf{Ax}$$

まとめると,

$$\begin{bmatrix} x_A \\ x_B \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} g_1 & g_2 \\ g_3 & g_4 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} g_1 \\ g_3 \end{bmatrix}$$

$$\begin{bmatrix} x_A \\ x_B \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} g_1 & g_2 \\ g_3 & g_4 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} g_2 \\ g_4 \end{bmatrix}$$

行列に単位行列をかけたことに相当



(復習)単位力でなくて良い

$$\begin{bmatrix} g_1 & g_2 \\ g_3 & g_4 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} f_{z1} \\ f_{x1} \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} m_1 \\ m_2 \end{bmatrix}$$

$$\mathbf{GF} = \mathbf{M}$$

$$\mathbf{G} = \mathbf{MF}^{-1}$$

- 2回既知のカベクトルを加えて, 各センサの出力を得る
- カベクトルを並べたものをカ行列 \mathbf{F} , センサ出力を並べたものをカ行列 \mathbf{M} とする
- カ行列の逆行列 \mathbf{F}^{-1} を \mathbf{M} にかければ, 行列 \mathbf{G} が得られる.
- \mathbf{G} の逆行列が望んだ較正行列 \mathbf{A}



行列と最小二乗法

本日の疑問

- 一般には正方行列ではない
- 「逆行列」は定義できず、キャリブレーションもできないのでは

本日の解答

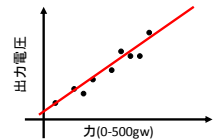
$$3 \begin{bmatrix} F_z \\ F_x \\ F_y \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} k_1 & k_1 & k_1 & k_1 \\ k_2 & k_2 & -k_2 & -k_2 \\ k_3 & -k_3 & k_3 & -k_3 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x_A \\ x_B \\ x_C \\ x_D \end{bmatrix} \quad 4$$

3x4行列

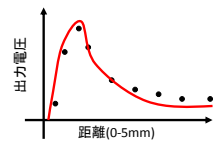
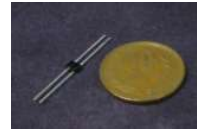
- 逆行列は定義できなくても **擬似逆行列** (Pseudo Inverse Matrix) は定義できる。
- またこれは **最小二乗法** という、工学全体を支える基礎的な考え のもっとも代表的な体現である。

色々なセンサ

フィルム状力センサ

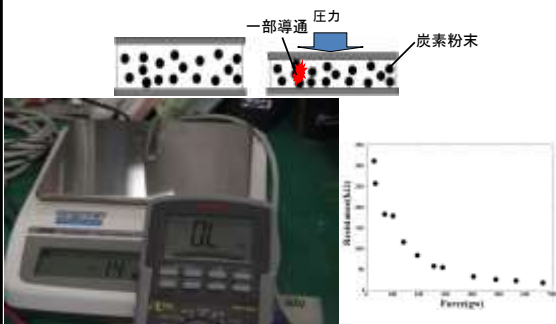


フトリフレクタを用いた近接距離センサ



いかにして較正曲線を求め、センサとして使えるようにするか？

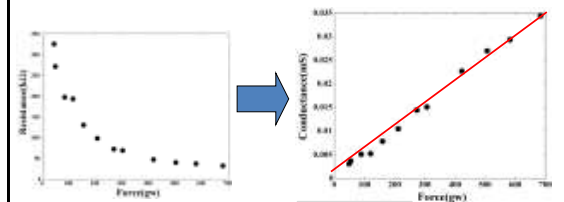
フィルムセンサの定式化(1)



フィルムセンサの抵抗: 力に反比例?

フィルムセンサの定式化(2)

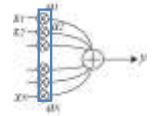
抵抗ではなくコンダクタンス(抵抗の逆数)を見る



$$y = ax + b \quad \begin{cases} x: \\ y: \\ a, b: \end{cases}$$

実験でなじみ深い「直線フィッティング」

最小二乗法(1)



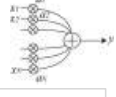
$y = a_1x + a_2$ から一般化
 $y = a_1x_1 + a_2x_2 + \dots + a_Nx_N$

N個の既知入力 $[x_1, x_2, \dots, x_N]$ と
 N個の未知パラメータ $[a_1, a_2, \dots, a_N]$ の
積和によって1個の出力 y が決定されるシステム.

目的: N個の未知パラメータ $[a_1, a_2, \dots, a_N]$ の同定 (identification)
 取れる手段: 入力 の操作と出力 の計測

フィルムセンサの場合: $y = a_1x_1 + a_2x_2$ where $x_2 = 1$

最小二乗法(2)



$y = a_1x_1 + a_2x_2 + \dots + a_Nx_N$

入力を変化させ、M回の出力を得る

$$y_1 = a_1x_{11} + a_2x_{12} + \dots + a_Nx_{1N}$$

$$y_2 = a_1x_{21} + a_2x_{22} + \dots + a_Nx_{2N}$$

$$\vdots$$

$$y_M = a_1x_{M1} + a_2x_{M2} + \dots + a_Nx_{MN}$$

結局

$$\mathbf{y} = \mathbf{Xa}$$

\mathbf{X} : $M \times N$ 行列. 入力. 既知
 \mathbf{y} : $M \times 1$ ベクトル. 出力. 観測可能
 \mathbf{a} : $N \times 1$ ベクトル. 未知.

もし $M=N$ なら $\mathbf{a} = \mathbf{X}^{-1}\mathbf{y}$

実際には $M \neq N$ で \mathbf{X}^{-1} は存在しないことがほとんど

最小二乗法(3)

いかにして $\mathbf{y} = \mathbf{Xa}$

\mathbf{X} : $M \times N$ 行列. 入力. 既知
 \mathbf{y} : $M \times 1$ ベクトル. 出力. 観測可能
 \mathbf{a} : $N \times 1$ ベクトル. 未知.

を \mathbf{a} について解くか.

解けない(未知数より方程式の数が多し)
 つまり、式を完全に満たすベクトル \mathbf{a} は、**無い**

(1) 測定された出力ベクトル \mathbf{y} が誤差を含んでいると仮定
 $\mathbf{y} = \mathbf{Xa} + \mathbf{e}$ where $\mathbf{e} = [e_1, e_2, \dots, e_M]^T$

(2) 誤差の大きさが最小となるような \mathbf{x} を
 もっともらしい \mathbf{x} として受け入れよう.

(3) 大きさとして二乗和(二乗ノルム)を採用.

$$\sum_{i=1}^M e_i^2 = [e_1, e_2, \dots, e_M] [e_1, e_2, \dots, e_M]^T = \mathbf{e}^T \mathbf{e}$$

誤差の「大きさ」

$$\mathbf{y} = \mathbf{Xa} + \mathbf{e}$$

$$\mathbf{e} = \begin{bmatrix} e_1 \\ e_2 \\ \vdots \\ e_M \end{bmatrix}$$

$$\|\mathbf{e}\|^2 = \mathbf{e}^T \mathbf{e} \quad T \text{は転置.}$$

$$\|\mathbf{e}\|^2 = \sum_{i=1}^M e_i^2 = [e_1, e_2, \dots, e_M] \begin{bmatrix} e_1 \\ e_2 \\ \vdots \\ e_M \end{bmatrix} = \mathbf{e}^T \mathbf{e}$$

誤差の「大きさ」を最小化する

$$\|\mathbf{e}\|^2 = \mathbf{y}^T \mathbf{y} - 2\mathbf{y}^T \mathbf{Xa} + \mathbf{a}^T \mathbf{X}^T \mathbf{Xa}$$

誤差の大きさが最小となる \mathbf{a} を見つける

$$\frac{\partial}{\partial \mathbf{a}} \|\mathbf{e}\|^2 = \frac{\partial}{\partial \mathbf{a}} (\mathbf{y}^T \mathbf{y} - 2\mathbf{y}^T \mathbf{Xa} + \mathbf{a}^T \mathbf{X}^T \mathbf{Xa})$$

$$= \frac{\partial}{\partial \mathbf{a}} (a^2x^2 - 2ayx + y^2)$$

$$= \frac{\partial}{\partial a} (a^2x^2 - 2ayx + y^2)$$

$$= 2x^2a - 2yx$$

$$= 0$$

$$x^2a = yx$$

$$a = y/x$$

$$\mathbf{a}^T = \dots$$

$$\mathbf{a} = \dots \because (\mathbf{X}^T \mathbf{X})^{-1} = (\mathbf{X}^T \mathbf{X})^{-1} = (\mathbf{X}^T \mathbf{X})^{-1}$$

擬似逆行列

結論: 未知パラメータのベクトル \mathbf{a} は次の式で求められる.

$$\mathbf{a} = \mathbf{X}^\# \mathbf{y}$$

ただし

$$\mathbf{X}^\# = (\mathbf{X}^T \mathbf{X})^{-1} \mathbf{X}^T$$

$\mathbf{X}^\#$: 擬似逆行列 (Pseudo Inverse)

擬似逆行列は逆行列の拡張である

行列 X が正則な場合

$$X^\# = (X^T X)^{-1} X^T$$

$$=$$

$$=$$

25

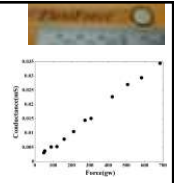
(再考)フィルムセンサの場合

$$y = a_1 x + a_2 \begin{cases} x: \text{力: 既知入力} \\ y: \text{コンダクタンス: 測定結果} \\ a_1, a_2: \text{未知パラメータ} \end{cases}$$

これは

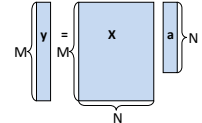
$$y = a_1 x_1 + a_2 x_2 \text{ where } x_2 = 1$$

とみなせる。

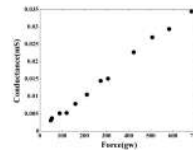
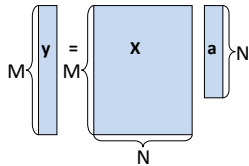


加える力を変え、 M 回測定する(2回以上)

$$\begin{matrix} y_1 = a_1 x_{11} + a_2 \cdot 1 \\ y_2 = a_1 x_{21} + a_2 \cdot 1 \\ \vdots \\ y_M = a_1 x_{M1} + a_2 \cdot 1 \end{matrix} \quad \begin{bmatrix} y_1 \\ y_2 \\ \vdots \\ y_M \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} x_{11} & 1 \\ x_{21} & 1 \\ \vdots & \vdots \\ x_{M1} & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} a_1 \\ a_2 \end{bmatrix}$$



(再考)フィルムセンサの場合



よって,

$$a = X^\# y \text{ where } X^\# = (X^T X)^{-1} X^T$$

により二つの未知パラメータを求めることができる。

27

手作業で求めてみる

$$a = X^\# y$$

$$= (X^T X)^{-1} X^T y$$

$$= \begin{bmatrix} x_1 & x_2 & \dots & x_M \\ 1 & 1 & \dots & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x_1 & 1 \\ x_2 & 1 \\ \vdots & \vdots \\ x_M & 1 \end{bmatrix}^{-1} \begin{bmatrix} x_1 & x_2 & \dots & x_M \\ 1 & 1 & \dots & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} y_1 \\ y_2 \\ \vdots \\ y_M \end{bmatrix}$$

$$=$$

$$=$$

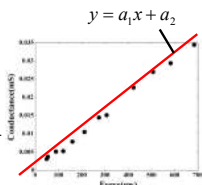
$$=$$

28

手作業で求めてみる

$$a_1 = \frac{M \sum x_i y_i - \sum x_i \sum y_j}{M \sum x_i^2 - (\sum x_i)^2}$$

$$a_2 = \frac{-\sum x_i \sum x_j y_j + \sum x_i^2 \sum y_j}{M \sum x_i^2 - (\sum x_i)^2}$$



これは、直線によるフィッティングの公式に他ならない

29

何を最小化したか

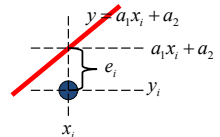
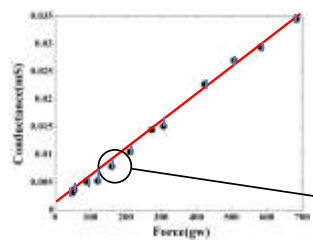
$$y = Xa + e$$

$$e = y - Xa$$

$$\|e\|^2 = e^T e = \sum_{i=1}^M e_i^2$$

$$y_i = a_1 x_i + a_2 + e_i$$

$$e_i = y_i - a_1 x_i - a_2$$

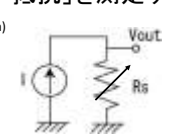


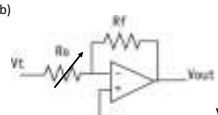
データと直線の,

「 y 軸に沿った距離」の二乗の和を最小化した。

30

(参考)実際の測定回路

- 「抵抗」を測定するなら
 - (a)
 

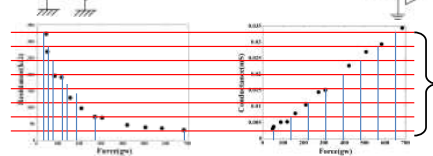
I: 定電流源
Vout: 出力
 $V_{out} = I \times R_s$
出力電圧は抵抗に比例
- 「コンダクタンス(抵抗の逆数)」を測定するなら
 - (b)
 

Vt: 定電圧源
Rs: フィルムセンサの抵抗
Rf: 調整用固定抵抗
これは「反転増幅回路」
 $V_{out} = R_f / R_s \times V_t$
Vtが一定なら出力電圧は抵抗に反比例

「抵抗」を測定して逆数をとればよいのでは？

別にそれでもよい。しかし玄人な理由はある。

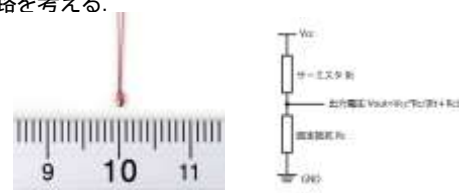
- (a)出力は抵抗に比例
- (b)出力はコンダクタンスに比例



- アナログ部による線形化の意義
=ADボードによる量子化の影響を低減
「ダイナミックレンジを広げる」とも言う。

(参考2)実際の測定のための回路設計

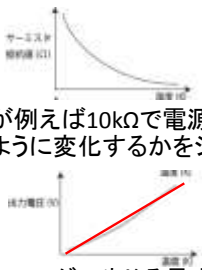
- 例えば温度を測定したいと考える
- 「サーミスタ」を使えばよいことが分かる。
- サーミスタはやはり温度に反比例(正確には違う)な感じで抵抗値が下がるので、逆数に近い電圧が出る回路を考える。



ではこの固定抵抗はどのように決めたらよいのか？

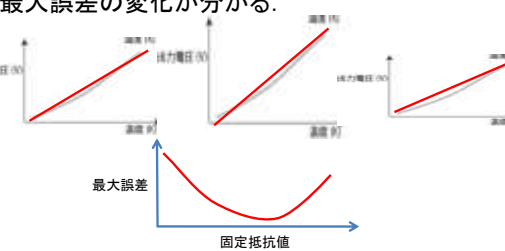
(参考2)実際の測定のための回路設計

- 温度変化に対して抵抗値を測定する
- 固定抵抗が例えば10kΩで電源が5Vの時、出力電圧がどのように変化するかをシミュレートする。
- 直線フィッティングで生じる最大の誤差を求めるこの誤差が、測定システムの「性能」になる。

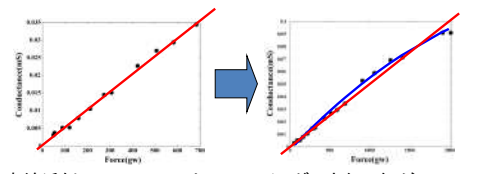


(参考2)実際の測定のための回路設計

- 固定抵抗を色々変えた場合をシミュレートすると、最大誤差の変化が分かる。
- 最大誤差が最小になる値が求まる固定抵抗値



フィルムセンサを限界性能まで使いきりたい。



直線近似 $y = a_1x + a_2$ ではフィッティングできない気が...
(直線領域だけで使う、という方針も正しい)

多項式によるフィッティングを試みる。

$$y = a_1x + a_2 \rightarrow y = a_1x^2 + a_2x + a_3$$

$$y = a_1x^3 + a_2x^2 + a_3x + a_4$$

もはや直線フィッティングの公式は使えない。

多項式近似

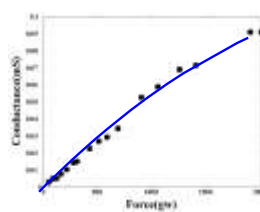
$$y = a_1x^2 + a_2x + a_3 \begin{cases} x: \text{力: 既知入力} \\ y: \text{コンダクタンス. 測定出力} \\ a_1, a_2, a_3: \text{未知パラメータ} \end{cases}$$

何度も測定する

$$y_1 = a_1x_1^2 + a_2x_1 + a_3$$

$$y_2 = a_1x_2^2 + a_2x_2 + a_3$$

$$\vdots$$

$$y_M = a_1x_M^2 + a_2x_M + a_3$$


37

多項式近似

$$y_1 = a_1x_1^2 + a_2x_1 + a_3$$

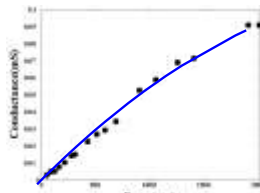
$$y_2 = a_1x_2^2 + a_2x_2 + a_3$$

$$\vdots$$

$$y_M = a_1x_M^2 + a_2x_M + a_3$$

$$\begin{bmatrix} y_1 \\ y_2 \\ \vdots \\ y_M \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} x_1^2 & x_1 & 1 \\ x_2^2 & x_2 & 1 \\ \vdots & \vdots & \vdots \\ x_M^2 & x_M & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{bmatrix}$$

$y = Xa$ の形に出来たので、
 $a = X^\#y$ where $X^\# = (X^T X)^{-1} X^T$
 により3つの未知パラメータを求めることができる。(計算機のごと)



38

我に返って... 何をしたかったか

(1) $y = a_1x + a_2$ x : 力: 既知の入力
 (2) $y = a_1x^2 + a_2x + a_3$ y : コンダクタンス. 測定した出力
 (3) $y = a_1x^3 + a_2x^2 + a_3x + a_4$ a_1, \dots, a_4 : 未知パラメータ

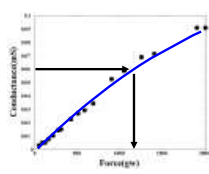
モデルの未知パラメータを求めるのがゴールではない。
測定出力 y から力 x を逆算することがゴール。

$$(1) \quad x = (y - a_2) / a_1$$

$$(2) \quad a_1x^2 + a_2x + (a_3 - y) = 0$$

$$x = \frac{-a_2 \pm \sqrt{a_2^2 - 4a_1(a_3 - y)}}{2a_1}$$

$$(3) \quad a_1x^3 + a_2x^2 + a_3x + (a_4 - y) = 0$$

$$x = \dots \quad (\text{3次方程式の解の公式})$$


39

係数は別に整数でなくて良い

$$y_1 = a_1x_1^{1/2} + a_2$$

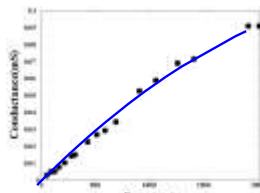
$$y_2 = a_1x_2^{1/2} + a_2$$

$$\vdots$$

$$y_M = a_1x_M^{1/2} + a_2$$

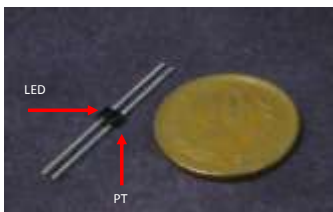
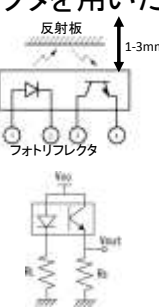
$$\begin{bmatrix} y_1 \\ y_2 \\ \vdots \\ y_M \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} x_1^{1/2} & 1 \\ x_2^{1/2} & 1 \\ \vdots & \vdots \\ x_M^{1/2} & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} a_1 \\ a_2 \end{bmatrix}$$

関数であっても良い。たとえば $\log(x)$ など。



40

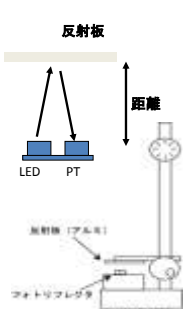
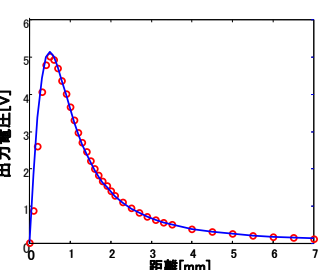
(ケーススタディ) フトリフレクタを用いた近接距離計の較正

出力電圧は反射光量に比例。
出力電圧から反射板との距離を得たい。

41

測定

いかにして較正曲線を求め、センサとして使えるようにするか? :

42

モデル化(1)

反射板を鏡面とみなし, LEDの“像”からPTへの光路を考える.

LEDを点光源とすると, PTの受光量はLED像からみたPTの立体角 Ω に比例.

LED像とPTの距離:
 $l = \sqrt{c^2 + (2d)^2}$

PTの立体角:
 $\Omega = \frac{\cos \theta}{l^2} \Delta S$ ΔS : PTの表面積

$\dots = \frac{k_1 d}{(d^2 + k_2)^{3/2}}$ k_1, k_2 : 定数

43

モデル化(2)

PTの受光量が立体角 Ω に比例するから, 出力電圧も同様.

$V = \frac{k_1 d}{(d^2 + k_2)^{3/2}}$: 理論曲線

- d が小さければ V は d に比例
- d が大きければ $1/d^2$ に比例

未知パラメータ k_1, k_2 を求めれば
 入出力関係が記述できる

44

フィッティングの準備

$V = \frac{k_1 d}{(d^2 + k_2)^{3/2}}$ $\left\{ \begin{array}{l} d: \text{入力(距離)} \\ V: \text{出力(電圧)} \\ k_1, k_2: \text{未知パラメータ} \end{array} \right.$

変形(線形化)

$V^{2/3} (d^2 + k_2) = k_1^{2/3} d^{2/3}$
 $V^{2/3} d^2 = k_1^{2/3} d^{2/3} - V^{2/3} k_2$

$\left. \begin{array}{l} V^{2/3} d^2 = y \\ k_1^{2/3} = a_1 \\ d^{2/3} = x_1 \\ -V^{2/3} = x_2 \\ k_2 = a_2 \end{array} \right\}$ と置けば

$y = a_1 x_1 + a_2 x_2$

$\left\{ \begin{array}{l} x_1, x_2, y: \text{既知} \\ a_1, a_2: \text{未知} \end{array} \right.$ 最小二乗法によってパラメータを同定できる. 45

多数の測定から,

$y_1 = a_1 x_{11} + a_2 x_{12}$
 $y_2 = a_1 x_{21} + a_2 x_{22}$
 \vdots
 $y_M = a_1 x_{M1} + a_2 x_{M2}$

$$\begin{bmatrix} y_1 \\ y_2 \\ \vdots \\ y_M \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} x_{11} & x_{12} \\ x_{21} & x_{22} \\ \vdots & \vdots \\ x_{M1} & x_{M2} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} a_1 \\ a_2 \end{bmatrix}$$

$y = Xa$ の形なので,
 $a = X^\# y$
 where $X^\# = (X^* X)^{-1} X^*$
 によって a を求める.
 最後に
 $k_1^{2/3} = a_1, k_2 = a_2$
 から k_1, k_2 を得る.

簡易化

出力電圧から距離に変換する際

- 2値性がある
- 3次方程式の根を得る必要がある

$(V = \frac{k_1 d}{(d^2 + k_2)^{3/2}}$ の変形から)

ストップバーを設ける.
 距離が離れるのでモデルの簡易化可能

$V = \frac{k_1}{(d + k_2)^2}$

同じように $y = a_1 x_1 + a_2 x_2$ の形に変形

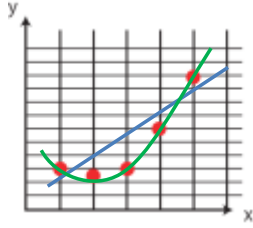
47

簡易化(結果)

48

レポート課題(1)

次のデータ系列に対して、
Scilabを用いて、
(1) 直線による近似、
(2) 2次曲線による近似を適用、
パラメータを求め、
曲線とデータをグラフに描け



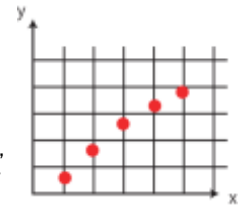
x	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0
y	3.0	2.5	3.0	6.0	10.0

なおScilabでは行列Aの擬似逆行列はpinv(A)で直接求めることができる。
当然自分でinv(A'*A)*Aとやっても同じ。

49

レポート課題(2)

次のデータ系列に対して、
 $y = a1 * \log(x) + a2$
を仮定してパラメータを求め、
曲線とデータをグラフに描け
(やや難?)



x	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0
y	0.5	1.9	2.7	3.3	3.7

50